

認知症作業療法 活動報告（概要）

福岡県作業療法士会では、保健福祉部内に認知症作業療法推進委員会を設置している。現在の主な活動は、「認知症アップデート研修」を中心とした研修の開催を行い、会員に対する最新知識の普及活動を実施している。来年度以降、「認知症作業療法 実践コース（仮）」の開催を計画しており、地域活動につながる作業療法士の育成と県士会内での横のつながりを目指している。

会員向け研修事業（認知症アップデート研修と実践コースの開催計画）

平成30年度は合計2回で約200名の参加を見込んでいる。すでに、1回は終了し、85名（申し込みは100名）の参加者であった。2回目は、台風の影響で延期し、12月開催予定となっている。

アップデート研修の内容は、協会指定の資料に加えて、各講師が必要に応じて資料などを付け加え実施している。時間も、協会推奨の時間よりも、概ね1.5倍程度にしている。

1回目の研修アンケート結果では、参加者の経験年数は2～30年目と他研修会に比べて幅広い参加者の参加がみられる。研修に対する満足度は、大変満足が約25%、満足が約69%と高い。今後の研修会への要望は、臨床における作業療法の紹介に加え、地域活動を取り上げて欲しいとの意見が挙げられたことに加え、予防事業などに対する地域活動が業務外になってしまうため、所属の理解を得ながら活動をするための対策を教えて欲しいなども意見として挙げられた。さらに、今後、地域の認知症への関わりに協力できる方を尋ねると、18名（83名中）の手挙げがあった。各研修会で協力者を集い、市町村から協力依頼があった際、活用できるようにする。

これらを受け、平成31年度は先駆的な取り組みを行っている会員や市町村事業を取り上げ、横のつながりを深め、地域事業に携わる会員を増やせる研修会（実践コース）の開催を企画している。



市町村事業への協力体制構築 事業

各市町村での協力体制の構築を目指し、各市町村での認知症関連の地域事業の状況把握を実施する。また、協力依頼があった際は、人材派遣が行えるように、体制の整備中である。1例として、福岡市においては、人生100年時代に向けて、誰もが住み慣れた地域で、心身ともに健康で自分らしく暮らせる、「ひと」も「まち」もどちらも幸せになれる社会の実現を目指すプロジェクト「福岡100」に取り組んでおり、その中の「包括的なコミュニケーションに基づいたケアの技法であるユマニチュードの普及・啓発」など、認知症施策6つを軸として福岡市認知症フレンドリーシップ宣言を行っている。当協会からは認知症にやさしい「デザイン」ガイドライン作成委員会に委員を派遣している。この委員会では認知症の人たちの尊厳を保ち、その人らしく、できるだけ長い間自立して生活できることを促す街のデザインを検討している。派遣した委員は認知症高齢者の特性が「認知機能の極端な低下」、「さまざまなBPSDの必発」と捉えられがちなか、作業療法士の視点を最大限に活用し、認知症の重症度（MCI含む）・疾患特性・個別性などに基づき認知症高齢者の生活に視点を当てる役割を果たしている。

今後の展開

- ・ 会員向け研修の開催（アップデート研修と地域事業参加者養成研修）
- ・ 市町村事業への協力体制の構築